事業用スペースの集客導線対策

店舗・教室・クリニックの見せ方が後回しになっていませんか？

ーサイネージを、広告ではなく、“空間の伝わり方”として考えるー

01 見られているのに、伝わっていない外観

通りがかりの人は、外観や入口まわりを見ています。

でも、中で何をしている場所なのか、どんな雰囲気なのか、
人の気配があるのかまでは、意外と伝わっていません。
その分かりにくさが、入りにくさや素通りにつながることがあります。

02 貼るだけでは、印象に残りにくい

ポスターや POP は手軽に増やせます。

ただ、増えるほど情報が散らばり、かえって印象が弱くなることもあります。

空間の魅力や安心感を届けるには、
文字情報だけでなく、
光・動き・余白を使った見せ方が必要です。

03 サイネージは、空間の見え方を整える道具

サイネージは、派手な広告を流すためだけのものではありません。

空間の雰囲気を伝えたり、人の気配を届けたり、
入口の不安を下げるためにも使えます。

待合・教室・店舗・クリニックの“らしさ”を、
静かに外へ伝える方法として考えることができます。

デジタルサイネージ導入は

「デジタルサイネージ＝壁のディスプレイ」だけではありません。

サイネージは、単に画面を設置するだけではなく、
「どこで、誰に、何を、どの距離で伝えるか」を考えることが大切です。

POT3 では、窓・外観・光・映像を組み合わせ、
空間の見え方から導入を考えます。

窓を、光を戻しながら PR プロジェクションシアターへ、人に記憶を残す動く窓に変えられます。

導入イメージ
はこちらへ

POT3
光と人の気配を街に戻す

取扱・協力会社